

松下幸之助記念財団 研究助成

研究報告

【氏名】 高橋誠

【所属】 慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程

【研究題目】 現代スコティッシュ・ナショナリズムと英国福祉国家の再編

【研究の目的】

2014年9月18日に実施されたスコットランドの連合王国からの独立をめぐる住民投票は賛成44.7%、反対55.3%という結果となり（投票率は約87%）、300年以上続いた連合の解消には至らなかった。独立住民投票時スコットランド首席大臣であったアレクス・サーモンドも認識していたように、従来の世論調査でスコットランドの独立という選択肢を選ぶ回答者は30%前後を推移していた。それではどうして実際の住民投票では44.7%の投票者がスコットランドの独立という選択をしたのだろうか。その要因を探ることが本研究の主目的である。スコットランドの独立はスコットランドが主権国家になるということであり、そのため住民投票の争点は多岐に渡ったが、これまでの調査は、独立賛成／反対という投票志向には独立後のスコットランドの経済に関する見方が有意な関係があるとするものが多かった。本研究では、そうした見解ではなく「福祉ナショナリズム」という視角から44.7%の独立賛成率の一部を説明できるのではないかと考える。

【研究の内容・方法】

研究の方法に関しては、スコットランドのエディンバラ、グラスゴー、ダンディーという3都市に滞在した39日の間に実施した資料の閲覧・収集が中心となった。まずは、エディンバラ滞在中は主にスコットランド国立図書館にて資料の閲覧・複写を行った。資料内容に関しては、スコットランドの独立住民投票時に使用されたビラやパンフレットの他に、1989年に設立されたスコットランド憲政会議の資料、そして法学者でありスコットランド国民党の創設者の一人であるジョン・マコーミックの息子で、自身もスコットランド国民党に大きく関与し、スコットランド国民党選出のヨーロッパ連合議会議員も務めたニール・マコーミックに関する文献の閲覧も行うことができた。さらに、12月12日にはスターリング大学にて資料閲覧・記録を行った。スターリング大学は政治学者のピーター・リンチ教授（Peter Lynch）が中心となり、独立住民投票キャンペーン時に使用された物品や資料の収集プロジェクトを実施し、コレクションを所有している。加えて、12月14日にはエディンバラ市街北部に所在するスコットランド・ナショナル博物館のコレクション・センターにて独立住民投票時と関連のある物品の閲覧・記録を実施した。また、学芸員の方に博物館のスコットランドに関する展示について回答していただいた。

資料収集の他にも、核ミサイル搭載の原子力潜水艦の現状維持あるいは廃止という独立住民投票時の一つの争点に関する調査を行うために、スコットランド西部のファスレーン海軍基地入口のそばにあるファスレーン平和キャンプを訪れ、活動員に聞き取りを行った。また、グラスゴー滞在中には現地に在住している日本の方に紹介していただき、教会（Kirk）のイベントに参加し、現地の方々とスコットランドのナショナリズムに関して聞き取りをする機会を得ることができた。

【結論・考察】

まず、国立図書館で閲覧したニール・マコーミックに関する文献を閲覧することで、彼がスコットランド国民党の理念の確立に影響を与えていることが明らかとなった。その理念の一つが、漸進主義である。2014年の住民投票でも2年以上にわたる独立賛成派／反対派のキャンペーンが展開されたが、そうした比較的長期のキャンペーン期間を設けて、スコットランドのあり方を議論していくという方針も漸進主義の現われであったといえ

る。独立賛成団体はスコットランド国民党の傘下にあったのだが、労働党支持者による独立賛成に関する資料も確認できたように、賛成団体は広く支持を得られるような運動を展開した。そうした広い支持を得られるような争点のひとつが、進歩主義的な「社会政策」であったことが独立派のもちいたマテリアルを通じて見えてきた。

結論を簡潔にまとめれば、スコットランドの独立賛成率を押し上げた要因を「経済」以外にも見いだしていく必要があるということである。